

チーバくんグローバルパートナーズ意見交換会

日 程：２０２５年８月２０日（水曜日）

開催方法：オンライン開催（Zoom）

出席者：チーバくんグローバルパートナーズ１５名、千葉県国際交流センター（以下ＣＣＢ）
職員２名、千葉県職員３名

次第

１．課長挨拶

２．自己紹介

３．意見交換会

- （１）在住外国人に向けた効果的な情報発信について
- （２）日本語教育支援について

４．その他

千葉県国際交流センター事業紹介

意見交換会 詳細

テーマ１「在住外国人に向けた効果的な情報発信について」

（１）各国でよく使われる SNS ツールは何か。

挙げた SNS ツール：カカオトーク、ネイバーブログ、サブスタック、ノート、ウィチャット、
レッドブック、ウェイボー、ティックトック、フェイスブック、
インスタグラム、ワッツアップ、ザロ

- ・カカオトークは、日常的な連絡手段としてよく使われる。
- ・ネイバーブログのグループを作成して、そこで情報交換や友達作りをしている人が多い。
- ・最近、サブスタックというサービスがよく使われている。これは、ブログ記事を書いて Eメールで配信できるサービスであり、自分も去年から利用している。また、ノートというブログ作成サービスも利用している。
- ・自分が発信効果があると感じるのは、レッドブック、ティックトック、ウィチャット。レッドブックは日本人にも使われており、情報発信に活用している日本の会社もある。行政からの情報は見たことはないが、外国人にとって有益な情報であれば、みんな見ると思う。
- ・ティックトックは動画配信サービスだが、発信したい情報を文字で表示し、音楽をつけて流すというような方法もある。
- ・ザロでは公式アカウントを作れるので、県やＣＣＢが防災の情報などを流すことも可能だと思う。

(2) 出身国ごとの、在住外国人向け情報ポータルサイト等はあるか。

- ・母国語の大きなコミュニティサイトがあり、イベントや防災などの様々な情報が載っていて、日本にいる人は皆ここを見ている。
- ・母国語のポータルサイトがあるが、活用している人の年齢層が高く、若者は見えていない。若者はやはりフェイスブックを使っている人が多く、グループを作って情報交換をしている。在日外国人のグループを見つけて、そこに入って情報を発信するのが一番効果的ではないかと思う。

(3) 在住外国人向けに情報発信をする場合、多言語とやさしい日本語それぞれのメリットは何か。また、中国や台湾などの漢字圏の人にとっては、英語ではなく漢字の方がわかりやすいか？

- ・日本語があまり堪能ではない人にとっては、やさしい日本語と英語の併記がよく、漢字にはふりがながあった方がわかりやすいと思う。
- ・同じく、やさしい日本語と英語の併記がよい。近年は日本に住む外国人の国籍も様々なので、色々な言語に翻訳するときに、英語から翻訳するのが一番間違いがないと思う。また、日本語に関して、ホームページなどの都合上ふりがながつけられない場合には、W o r dなどで文章を作成し、画像として載せる方法もよい。
- ・漢字圏出身者にとって漢字は分かりやすいが、そこまで気にする必要はないと思う。

(4) 在日外国人のラインの活用状況はどうか。

- ・母国ではラインは使えないが、日本に来ている留学生などは、学校との連絡手段として必要な場合が多いので、ほとんどの人が使っているのではないかと思う。
- ・日本語学校やアルバイト先でも連絡手段としてラインを使うことが多い。
- ・小中学校から保護者への連絡も、最近は紙ではなくラインで一斉送信されると聞いている。
- ・他県の話にはなるが、愛知県の建築業に携わっている方に聞いた話では、外国人労働者とのコミュニケーションツールとしてやはりラインを使っているとのことだった。シフトの連絡をしたり、集合場所の地図を送ったりしているとのこと。

(5) 日本のルールやマナーをどのように知ったか。県が発信する場合、どこに発信すれば見ていただけるか。

- ・日本語学校や大学でも学んだが、そこだけでは学びきれない部分もあり、ユーチューブやティックトックの動画を見て勉強した。在日外国人が発信しているものもあるし、日本人が外国人向けに発信しているチャンネルもある。やはり動画で見るのが分かりやすく、フェイ

スブックのライブというのも最近はやっている。有名なインフルエンサーとコラボしてライブ配信などを行うのはとても効果的だと思う。

- ・来日した当時はSNSがなかった。趣味として日本の武道を勉強していたので、武道の先生から礼儀やマナー、敬語の使い方などを教わった。また、当時、東京都に「ウェルカム風呂敷」というボランティア団体があり、日本の色々な情報が載っているパンフレットなどを風呂敷に包んで提供してくれた。インターネットの普及に伴い、そういったサービスは無くなってきているが、歓迎の気持ちが表れていてよかったと思う。
- ・昔に比べて今は、電車でも多言語でのアナウンスが流れるし、とても便利な時代になったと思う。自分が来日した当時は、外国人が集まる店などに「ひらがなタイムズ」という情報紙が置いてあり、それを欠かさず読んでいた。外国人のために作られた情報紙であり、日本の文化、習慣、法律などに関する様々なコラムがふりがなつきで書かれていた。また、六本木などにも「トーキョー・ノーティス・ボード」という英語のフリーペーパーが置いてあり、毎週金曜日に発行されるため、外国人はみんな手に入れて読んでいた。そのほか、先輩に聞いたりもしたが、その情報が正しいかどうかわからなかった。今の学生はインターネットで簡単に情報が手に入るので幸せだと思うが、情報が多すぎて逆に、どれを見ればよいのか迷ってしまうこともあると思う。
- ・日本に遊びにきた友達に、よく「ごみをどこに捨てたらいいか」と聞かれる。食べ歩きで出たごみをどこに捨てればよいか分からずにポイ捨てしてしまう外国人もいると思うので、ごみの捨て方や分別の仕方について、わかりやすく動画にするなどして、もっと周知した方がよいと思う。
- ・自分は大学で日本のルールを学んだが、観光客は日本のルールがわからない。例えば、荷物が多いときに宅配便で送る方法があることや、電車の中で電話してはいけないということを知らない外国人が多い。飛行機の中にパンフレットを置いて、日本に来る前にルールやマナーを知ってもらうのがよいと思う。また、SNSで動画を発信するのもよいと思う。

テーマ2「日本語教育支援について」

(1) 来日後、どのように日本語を学んで上達したか。

- ・自分は日本語学校に二年通ったが、それだけでは不十分だったので、本を買ってきて独学で勉強をしたり、テレビが好きだったので、日本のニュース番組を見て知らない単語を辞書で調べたりした。ノートを作り、一日に単語を15個覚える決まりを作って勉強した。また、日本人の友達をたくさん作った。友達との会話が自分の日本語学習にとても役立ったと思う。
- ・来日した当時は、ずっと勉強ばかりだと疲れてしまうので、息抜きとして日本のお笑い番組などを見ていた。今、自分は外国人の日本語教育支援に携わっているが、一番重視しているのは

コミュニケーションをとることである。日本に来て年数が経っていても、周りとのコミュニケーション不足により日本語を覚える機会がないまま、子どもに通訳をしてもらっている外国人の親もいる。

- ・自分は小学生のときに来日し、学校に入る前に「日本語の基礎」という教材で勉強をしたが、正直あまり役には立たなかった。なぜなら、教材で扱われている日本語は、例えば「私」「あなた」など、小学生の日常会話にはフィットしないものだったから。その時から、教材は「誰向けであるか」がとても重要ということを感じている。労働者向けなのか、学生向けなのかによって内容は変わってくる。例えば、来日したばかりの子供であれば、まずは教材というよりコミュニケーションをとることから始まると思うし、労働者であれば、ですます調の話し言葉の習得が重要だと思う。
- ・来日してまず日本語学校で学び、基本的な日本語は覚えたが、実際に生活する中で自分が伝えたいことを話せるようになるまでには5～6年かかった。日本語を覚えるのに一番有効だったのはママ友を作ったことで、友達が使う言葉の真似をして、間違えながら覚えていった。子育て中のお母さんたちは、言葉が通じずに家にこもりがちになる場合もある。友達とコミュニケーションをとりながら情報交換できる環境があるとよいと思う。
- ・自分の学習のロードマップが思い描けておらず、勉強しても成長できていない外国人が多いように思う。自分は日本語を勉強していたとき、1日3つの言葉を覚えるようにしていた。日本語能力試験のN2では1,000字程度の漢字が必要なので、1年あれば覚えられる計算になる。このように、日本語学習者には、学習を始める前の段階で定量的な計画を示してあげるとよい。また、自分は食べることが好きなので、通学路にある飲食店の看板などを見て、知らない漢字があれば写真を撮って調べたりして覚えた。学校で学ぶより、街中やアルバイト先で覚えるのが一番早いと思う。あとは、ことわざから覚える方法も実践していた。日本人との会話の中でことわざや四字熟語を使うと「どうしてそんな言葉を知ってるの」と褒められたりして、コミュニケーションに役立った。さらに、友達作りのマッチングアプリも日本語上達に役立った。
- ・来日前は母国の大学で日本語や日本の文化を学んでおり、来日してからは、学校で働きながら、子供達や他の先生との会話を通して学んでいる。また、友達は、ボランティアの方が日本語学習の支援をしてくれる制度を利用している。それぞれに合った学習の仕方を見つけるのが大事だと思う。

(2) 日本語教育が必要な人が求めることは何か。

- ・自分の周りの外国人にアンケートをとってみた。飲食店で働く料理人は、職場で日本語を使う機会は少ないが、休日に買い物に行くときなどに、コミュニケーションがとれるようになりたいという人が多かった。読み書きは翻訳アプリを使えばよいので、会話ができるようになりたい

いとのこと。一方彼らの妻たちは、子供の学校行事に行ったときに日本語が分からず困ることが多いので、理解できるようになりたいという人が多かった。このように、人によって学びたい日本語や目的が違うので、アンケートやヒアリングを行った上で学習のクラス分けをするのがよいと思う。また、学習を始める前の段階で相談できる窓口があるとよい。

(3) 県では、帯同家族向けの日本語教育に取り組んでいるが、その他どのような人に日本語教育が必要だと思うか。

- ・来日したお母さん、奥さんは家庭内にいるという話があったが、日本語ができなくても家計のために働いている人が多いと思う。
- ・アルバイト先にいる実習生は日本語があまり上手ではなく、オンラインで日本語の授業を受けているが、仕事もしているので時間が十分にとれないこともあり、上達せずに困っている様子。また別の友人は、日本語学校を卒業してから経営ビザをとって仕事をしているが、仕事上の日本語で困ることが多く、日本語をもっと勉強したいとよく言っている。